

第144回芥川賞受賞作

貴子と永遠子。二人の少女は、永遠子の母が貴子の家の別荘を管理していた縁で、毎年夏のひとときをともに別荘で過ごす。貴子の母が亡くなったのを機に、その習慣は途切れてしまう。最後に二人が会ったのは、貴子が8歳、永遠子が15歳のときだった。

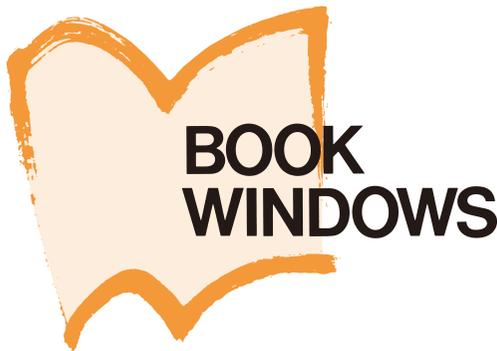


朝吹真理子（文学研究科前期博士課程）著
新潮社／定価1260円（税込）

意識と時間を巡る、幼い日の思い出

物語で描かれるのは、別荘の解体を前に実現した二人の25年ぶりの再会と、幼い日に共有した数々の思い出。夢や記憶と今が交互に現れる独特の文体は、曖昧な知覚の中で世界を行き来するような、不思議な感覚へと読者を誘ってくれる。

なお著者にとって本作品は、昨年のデビュー作『流跡』（新潮社）で最年少受賞した「第20回Bunkamuraドゥマコ文学賞」に続く受賞作品となる。



慶應義塾に関連した出版物や
教職員の最新著書などを中心に、
本に関する情報をお届けします。

（ここでご紹介している本に関するお問い合わせ等は
各発行所又は書店にお願い致します。）

教職員執筆の最新刊より

- 江藤省三（体育会野球部監督）著
『KEIO革命』 ベースボール・マガジン社新書 945円（平成22年11月）
 - 菊澤研宗（商学部教授）編著
『企業の不条理』 中央経済社 2,940円（平成22年10月）
 - 鈴木正崇（文学部教授）編
『東アジアにおける宗教文化の再構築』 風響社 6,300円（平成22年12月）
 - デイヴィッド・N・ワイル著、早見均（商学部教授）ほか訳
『経済成長（第2版）』 ピアソン桐原 4,200円（平成22年11月）
 - 奥田暁代（法学部教授）著
『アメリカ大統領と南部 合衆国史の光と影』 慶應義塾大学出版会 2,940円（平成22年12月）
 - 塩澤修平（経済学部教授）編
『高橋誠一郎 人と学問』 慶應義塾大学出版会 2,625円（平成22年7月）
- （編著者の職名は発行時のもの）

1875（明治8）年に刊行された『文明論之概略』は、当時の知識階級を対象とした学問的著述である。わが国と西洋の文明への見解、議論に臨む姿勢、智と徳の本質、自国独立のために国民が執るべき道など、福澤先生の論じた思想が凝縮された集大成といえる大著であり、数ある著書の中でも、唯一無二の価値をもっている。

本書は1970（昭和45）年に刊行された現代語訳版を、さらに現代人に読みやすく再編集し、復刊したもの。福澤先生が唱えた自主独立精神の真髄が、今を生きる私たちにも、鮮明に見て取れる一冊である。



福澤諭吉著 伊藤正雄訳
『現代語訳 文明論之概略』
慶應義塾大学出版会／定価3675円（税込）

慶應義塾の一冊